

令和元年（2019）12月4日～12月9日

令和元年度（2019）

第4回出雲市議会(定例会)  
一般質問通告一覧表

【令和元年12月2日変更後】

令和元年度（2019）第4回出雲市議会（定例会）  
一般質問通告一覧表 目次

12月4日（水） 10:00 開会			12月5日（木） 10:00 開会			12月6日（金） 10:00 開会			12月9日（月） 10:00 開会		
順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ
1	板垣成二	3	1	岸道三	10	1	伊藤繁満	15	1	湯浅啓史	21
2	保科孝充	4	2	長廻利行	11	2	玉木満	16	2	宮本享	22
3	福島孝雄	5	3	渡部勝	12	3	川光秀昭	17	3	寺本淳一	23
4	山内英司	6	4	錦織稔	13	4	板倉一郎	18	4	神門至	24
5	今岡真治	7	5	飯塚俊之	14	5	児玉俊雄	19	5	本田一勇	25
6	大場利信	8				6	福代秀洋	20	6	後藤由美	26 ～ 27
7	大谷良治	9									

質問者	22 板垣成二
質問事項・質問内容	
(1) 防災・減災・縮災対策について	
<p>① 今年も大きな自然災害が日本列島を襲いました。幸いにもこの間出雲市では大きな被害は出ていませんが、他の自治体での経験を教訓として、出雲市の防災・減災・縮災に取り組む必要があります。</p> <p>以下の5点に対する見解を求めると同時に、出雲市としてこの間の災害から何を学び、どのような防災・減災・縮災対策をすべきか。執行部の見解を伺うものです。</p> <p>ア 今回、主要河川の氾濫・決壊と同時に、バックウォーターにより多くの支流が氾濫しました。出雲市における河川の現状はどうか伺います。</p> <p>イ 一連の災害では、死者・行方不明者のうち高齢者が多くを占めました。独居・高齢者世帯や、独力では避難できない災害弱者を中心に、事前避難が重要です。市民の皆さんへの啓発と同時に、事前避難の具体策を検討する必要がありますが、見解を伺います。</p> <p>ウ 今回、防災行政無線が役に立たなかった自治体と、非常に役に立ったとする両極端な事例がありました。宅内の戸別受信機のある、なしがその分岐になりました。出雲市の緊急情報伝達手段としての防災行政無線については、今年度、ポケベル波を活用したシステム構築を視野に調査費を計上しています。早急に方針を決定する必要があると考えますが、見解を伺います。</p> <p>エ 台風15号では、広範囲にわたって長期間の停電が続きました。電力会社関係者ととも倒木処理ができるよう協議をし、協定を結んでおく必要があります。また避難所となる公共施設にはガスなど、電気以外の設備を整備する必要があり、新設の公共施設には必須であると考えますが、見解を伺います。</p> <p>オ 出雲市は、今年度から各支所を行政センター体制にしました。とりあえずスタートして、検証するということでした。出雲市全体で同時多発的に災害が発生したときに対応できるのか、その視点からの検証が必要だと考えますが、見解を伺います。</p>	

質問者	20 保科孝充
質問事項・質問内容	
(1) 特養・斐川サンホームの移転計画を聞く	
<p>① 斐川町学頭にある特別養護老人ホーム・斐川サンホームの移転が計画されているようです。地域の住民は、まだ詳しい内容は知らされていないようです。計画の概要と移転後の課題について伺います。</p> <p>ア 移転計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 移転施設建設場所と建設年次計画</li> <li>b 現在施設の解体計画と入居者の移動計画</li> <li>c 解体後敷地の利用方法</li> </ul> <p>イ 現在の施設利用者の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 特別養護老人ホーム・ショートステイ入居者の地域別人数</li> <li>b デイサービス利用者の地域別人数</li> <li>c 居宅介護支援利用者の地域別人数</li> </ul> <p>ウ 利用者と家族及び地域への説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a ほとんどが斐川町東部地域の利用者と思うが、家族等への理解を得られるか。説明会の方法と時期</li> <li>b 周辺地域とは様々な形で協力関係があったと思うが理解を得られるか。説明会の時期</li> </ul>	
(2) 次代を担う子供たちへの伝統文化伝承を伺う	
<p>① 文化の日前後に各地区のコミセンでは文化祭が開催され、私が訪問したコミセン等では、お花、そして茶道に関する展示等が整然と行われていました。しかし、最近の傾向としては、例えば生け花、茶道などの伝統文化は軽んじられる傾向にある気がします。国際交流の進むなか、各国から礼儀正しく親切な日本人が評価されていますが、幼いころからこのような伝統文化に触れた日本人の気質が宿っているからではないでしょうか。</p> <p>子供たちに教えることによって伝統文化の伝承に努めている方々もいますが、市の状況と今後の考え方を伺います。</p> <p>ア 市内の伝統文化伝承に向けた教室の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 各コミセンの子供たちに対する教室数とその人数</li> <li>b 生け花・茶道に取り組む小中学校数とその人数</li> </ul> <p>イ 出雲文化伝承館の役割と期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 各コミセン等との連携を積極的に行い、施設が整い雰囲気ある伝承館で体験させることは、さらなる創作意欲につながり、人格形成の一助にもなると期待するがいかがか伺う</li> </ul>	

質問者	15 福島孝雄
質問事項・質問内容	
(1) 子育てアプリ「すくすく出雲」の利用促進について	
<p>① 子育てアプリ「すくすく出雲」の特徴を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 自治体から提供される各種制度・サービスの案内</li> <li>イ 記録・管理</li> <li>ウ 情報提供・アドバイス</li> <li>エ 育児日記</li> <li>オ データ共有</li> </ul> <p>② 利用状況を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 登録者数・内、外国人</li> <li>イ 利用アクセス数</li> <li>ウ 利用者からの要望</li> </ul> <p>③ 災害避難時における、情報提供を伺う。</p> <p>④ 今後の利用促進と課題を伺う。</p>	
(2) 今後の農業経営の展望について	
<p>① 米の生産調整の変更から2年を経ての評価と検証及び、今後の動向を伺う。</p> <p>② 飼料用米の生産の推移を伺う。</p> <p>③ 転作面積割合の推移を伺う。</p> <p>④ 令和2年度、国の主食用米の適正生産量（708万～717万トン）を踏まえての市の取り組み、考えを伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 水田フル活用の考えと、今後の取り組み</li> <li>イ 中山間地域と平場地域の経営の格差</li> <li>ウ 長期展望に立った農業ビジョン</li> </ul> <p>⑤ 災害時における、農業経営の維持について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 「農業共済」と「収入保険」の加入状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>a 地域別（個人と組織別）（品目別）</li> </ul> </li> <li>イ 大規模災害時の「農業共済」と「収入保険」の違い及び、推進</li> </ul>	

質問者	3 山内英司
質問事項・質問内容	
(1) ふるさと納税について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成30年度の実績、令和元年度の見込みについて伺う。</li> <li>② 近年の推移とその評価について伺う。</li> <li>③ ふるさと納税に関わる職員体制について伺う。</li> <li>④ 今年度新たに取組まれた事について伺う。</li> <li>⑤ 米子市が急増した事案について伺う。</li> <li>⑥ 今後の取組みについて伺う。</li> </ul>	
(2) 用途廃止した学校施設の利活用について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 用途廃止した学校施設の利活用に係るサウンディング型市場調査について。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア サウンディング型市場調査とは。</li> <li>イ スケジュールについて伺う。</li> <li>ウ 対話について伺う。</li> <li>エ 結果の公表について伺う。</li> </ul> </li> </ul>	

質問者	1 今岡真治
質問事項・質問内容	
(1) 耕作放棄地の発生防止と解消について	
<p>① 出雲市における耕作放棄地の実態について伺う。</p> <p>② 耕作放棄地の発生防止の取組みについて伺う。</p> <p>③ 耕作放棄地の解消・再生の取組みについて伺う。</p> <p>ア 耕作放棄地再生事業が平成30年度で廃止されたが、同様な事業の創設など検討する考えはないか所見を伺う。</p>	
(2) 子どものゲーム障害対策について	
<p>① 若年層が陥りやすいと言われるゲーム障害の危険性についてどのように認識されているのか伺う。</p> <p>② 出雲市の小中学生のゲーム障害の実態について伺う。</p> <p>③ ゲーム障害対策の取組みについて伺う。</p>	

質問者	18 大場利信
質問事項・質問内容	
(1) 出雲いりすの丘公園の再生について	
<p>① 出雲いりすの丘公園の再生については、「市内の再生プロジェクト」による検討状況の中間報告、その後の民間の研究所による「再生に向けての調査業務報告」、そしてH26年6月の「再生方針案」の全員協議会での報告、その後5年間のブランクと続き、これから活用案を考えるべき時期に来ていると考えます。このような観点から以下伺います。</p> <p>ア 再生方針案の基本的方向性は変わらないか。特に再生方針案で述べられている6次産業化ゾーン、温浴保養ゾーン、多目的ゾーンおよび民間活力による再整備・管理運営についての方向性について伺う。</p> <p>イ 今後の具体化に向けて課題などが検討されるべきと考えるが市内での検討状況について伺う。</p> <p>ウ 併行して、いりすの丘の再生について熱い思いを持っておられる地域の人々や各ゾーンで事業を実施されている人と協議をする場を設けることも必要と考えるがこれについての見解を伺う。</p> <p>エ 農林水産省の補助金が交付されているが、今後の農林水産省との協議について伺う。</p> <p>オ 再生方針案では民間活力の導入・利用に言及されているが、市として大まかなフレームを定めることにとどめ、そのフレームの枠内で民間事業者の自由な発想に委ねる方向も考えられるがこの点について伺う。</p>	
(2) 美肌観光による湯の川温泉郷の活性化について	
<p>① 美肌観光を推進したい旨の丸山知事の意向がマスコミで紹介されております。市内には、日本三美人の湯の一つの湯の川温泉郷があります。泉質が肌に良く効き古くから周辺の人々に利用されて来ております。最近では古事記に記載されている大國主命と八上姫伝説にあやかって若い女性旅行客が道の駅湯の川の銅像を見て湯の川温泉郷の湯元にある八上姫神社に参拝され、その数が多くなって来ていると旅館の方たちから聞きます。美肌日本一をもたらす泉質の良さと古代ロマンは市の観光資源になると考えます。このような観点から以下伺います。</p> <p>ア 県に呼応し、湯の川温泉郷を古代ロマンあふれる美肌温泉として県内外にPRする努力が必要であると考えますが見解を伺います。</p> <p>イ 湯の川温泉郷を南北に走る道路（市道）について、円柱を半分にした道路の擁壁はデザイン的にも温泉郷にマッチしたのですが、現状は草に覆われ観光客を迎える様になっていません。これへの対策について伺います。</p> <p>ウ 入湯税は目的税で、1991年度からは観光分野にも使うことが可能となりました。入湯税収を湯の川温泉郷の環境整備に活用できると考えますがこれに関して次の3点について伺います。</p> <p>a 過去3年間の税収額</p> <p>b 主な配分項目</p> <p>c 観光に配分した額</p>	



質問者	9	大谷良治
質問事項・質問内容		
(1) 認知症予防対策と健康づくり		
① 認知症予防対策について ア 認知症高齢者や家族を地域で支えるサポート事業の取組み		
② 高齢者の認知症予防や健康づくりの推進について ア 健康の維持、介護予防の取組みと課題		
③ 高齢者の運動の推進について		

質問者	10 岸 道 三
質問事項・質問内容	
(1) ごみの減量化の推進について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中間見直し以降のごみ排出量、再資源化量、最終処分量の推移</li> <li>② 具体的施策による現時点での評価と課題</li> <li>③ 次期可燃ごみ処理施設稼働に向けた啓発活動の強化</li> </ul>	
(2) 行政センターへの移行に伴う現状と課題について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各行政センターにおける人員および組織体制</li> <li>② 移行後の評価と課題</li> <li>③ 適正な職員配置の必要性</li> </ul>	

質問者	32 長 廻 利 行
質問事項・質問内容	
(1) 災害時の情報伝達手段について	
<p>① 情報伝達手段としての防災行政無線の整備状況と今後の計画について伺う。</p> <p>ア 今年も関東地方最強の台風とも呼ばれた台風15号、19号をはじめ、全国各地で自然災害による甚大な被害があった。出雲においても、行政センターに移行して初めての避難勧告が出されたが、改めて災害時における情報伝達の重要性について考えさせられたところである。</p> <p>災害時の情報伝達手段としての防災行政無線について、これまで計画通り整備が進められていると思うが、屋外スピーカーについては、ほとんど聞こえないということも聞いている。やはり戸別受信機がないといけないということだと思うが、ここら辺りがうまく機能したかどうか。機能的に大丈夫なのか。整備状況と合わせて伺う。</p> <p>今後、斐川地区はデジタル化に合わせ、また、出雲の南部地域以外の地域と平田地域、大社地域に戸別受信機を整備する必要があると思うが、今後の整備の考え方や戸別受信機にした場合の個人負担がいくらになるかなど、具体的な計画を聞かせていただきたい。</p> <p>② 大社地域の情報伝達手段であるご縁ネットは、老朽化が進んでいると思われるが、今後の見通しについて伺う。</p> <p>ア 現在、大社地域では、ご縁ネット、いわゆる有線放送により戸別に情報伝達ができるシステムがある。今後、防災行政無線の戸別受信機が整備されれば、ご縁ネットの必要性も薄くなると思われる。</p> <p>ご縁ネットも老朽化が進んでおり、今の機器が壊れると代替えのものが無いと聞いているが、ご縁ネットの今後の見通しはどうか。また、戸別受信機が整備されれば、ご縁ネットは廃止するのか考えを伺う。</p>	

質問者	14 渡部 勝
質問事項・質問内容	
(1) 人口減少対策について	
<p>① 国は少子高齢化とそれがもたらす人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、2014年11月「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。1億人の人口維持をめざした「総合戦略」を閣議決定し、本市も国の「長期ビジョン」及び「総合戦略」を踏まえ、人口減少の抑制と持続可能なまちづくりに向け出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しました。</p> <p>その中の施策として総合振興計画「出雲未来図」と「総合戦略」に基づいた取り組みを進めていくなかで、それぞれの目標を定めてきました。</p> <p>そこで質問いたします。</p> <p>ア 基本目標1：出雲の特性を生かした魅力ある雇用の場を創出する  基本目標2：出雲との縁をつなぎ、ひとの流れをつくる  基本目標3：出雲で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる  基本目標4：住みやすさNo.1のまちづくりを行うとともに、住民による主体的な地域づくりを進める  基本目標5：広域連携による魅力ある圏域づくりをめざす  以上の基本目標年度が来年になりますが数値目標はどのような状況か</p> <p>イ 人口推計の仮定で合計特殊出生率の数値が示されているがどのような状況か。またその数値の根拠は</p> <p>ウ 外国人住民の増加によって本市はわずかながら人口増となっているが、今後の見通しはどう予測されているか</p>	

質問者	7 錦 織 稔
質問事項・質問内容	
(1) 子宮頸がん予防ワクチン接種について	
<p>① 子宮頸がんの原因とされるHPVの感染予防として、HPVワクチンの接種が2013年4月より国の定期接種となりましたが、2か月後の2013年6月には接種後の副反応により、自治体による積極的な勧奨は控えられています。国立がん研究センターによれば思春期と若年成人（AYA）世代のがん患者の8割を女性が占めていたとする調査結果を発表しました。本市における子宮頸がんワクチン接種の情報の周知について伺います。</p> <p>ア 子宮頸がんワクチン接種の情報の周知方法</p> <p>イ 定期接種の現状と課題</p>	

質問者	21	飯塚俊之
質問事項・質問内容		
(1) 出雲市内の再生可能エネルギーの有効活用について		
<ul style="list-style-type: none"><li>① 出雲市の再生可能エネルギーの発電量 (発電事業別、県内他市との比較)</li><li>② 出雲市の再生可能エネルギーの活用状況</li><li>③ 福岡県みやま市など他の自治体の取り組みの評価</li><li>④ 今後の再生可能エネルギーの活用策</li></ul>		

質問者	19	伊藤 繁 満
-----	----	--------

質問事項・質問内容

(1) 農業・農村の多面的機能支払制度（農地・水・環境保全）に関し現状の取り組みと課題及び推進について伺います

- ① 本制度については平成19年度に農地・水・環境保全向上対策として施行され、平成27年度から多面的機能支払制度に変わり現在に至っております。
- 現在、地方においては人口減少・高齢化、若者減少による働き手不足が深刻になり地域を守る人が少なくなり、特に農村部・まちの中心部から離れた周辺部においては耕作放棄地の増加、農業用・用排水路の老朽化、農道・河川の雑草の繁茂による環境悪化が生じつつあります。人と文化、地域コミュニティの疎遠、生態系の変化等、生活環境全般において多くの問題が発生しています。当地方においても同様であり課題の解決に向け多様な施策が必要であります。
- 本年11月6日、東京一橋講堂にて農林水産省、全国水土里ネット多面的機能支払促進協議会の主催で「多面的機能支払交付金全国研究会」が開催され、全国から約500人が集い、本制度の法律制定施行後5か年間の取り組みと効果について研究集会がありました。農水省・長山室長から5年間の総括が詳細に報告された後、全国の優良事例2か所の内の一つとして出雲市斐川土地改良区から「活動の円滑な推進に向けた土地改良区の役割」と題して今迄の取り組み経過について報告がありました。
- 斐川土地改良区は農地・水・環境保全向上対策が発足した平成19年度から斐川町と連携し地域資源の維持保全・強化、耕作放棄地の抑止、共同活動に努め、斐川町全体を一つにまとめて事業推進したことが高く評価されたものであります。
- 農業・農村が維持保全・強化され持続可能な次世代型農業につながる為、多くの克服すべき課題があります。多面的機能支払制度の有効活用が課題解決に大きな役割を果たすものと考えています。以下の項目について伺います。
- ア 令和元年度当初予算書によると本制度の活動組織は農地維持90組織、資源向上（共同活動）78組織、資源向上（長寿命化）54組織、面積がそれぞれ5447ha、5203ha、2897haで363百万円が予算化されています。5年前との比較を伺います。
- イ 出雲市全体の活動組織が多いのは何故か、今後の方針について伺います。
- ウ 築地松景観保全事業の薬剤散布は平成19年度制度発足から適用を受けていますが5年前と比較した活動状況について伺います。
- エ 斐伊川の河床低下は深刻な問題が生じています。慢性的な水不足、取水困難となっている斐川町の農業用水について取水容量を確保する目的で構築されてきた斐伊川の砂堰構築の経費は3か年でいくらか。又、多面的機能支払制度により多額の経費が投入されていると聞いているが実態はどうか。更にこの様な不正常的な状態をいつまで続ける考えであるか伺います。
- オ 多額の砂堰構築経費を軽減し必要な農業用水量を確保する観点から判断し、現在、無理をして出西頭首工から全量取水せず下流の鳥越樋門及び山陰本線鉄橋直下流の河床が安定し取水が容易な神立樋門、更に下流の今在家にある統合樋門を活用する手法もあると考えますが伺います。
- カ 農村の食文化向上に関し本制度の活用が考えられます。例として、そば打ち体験の指導等は、地域コミュニティの維持・強化の上から共同活動の分野で多面的機能支払制度に該当すると考えますが伺います。
- キ 県管理河川に設置している農業用取水堰上下流部は堰の設置者が維持管理負担することになっているが本制度の適用による河床土砂の撤去は可能か、伺います。

質問者	2 玉 木 満
質問事項・質問内容	
(1) 国営緊急農地再編整備事業の円滑な進捗を目指して	
<p>① 工事着手に向けて準備が進む、国営緊急農地再編整備事業「宍道湖西岸地区」。事業の円滑な進捗を願うと共に、農業振興及び農村活性化に向けた対応を伺う。</p> <p>ア 予定されている工事スケジュールについて</p> <p>イ 地域住民に対する周知広報について</p> <p>ウ 学校教育との連携について</p>	
(2) 在宅で医療機器を使用している方の避難について	
<p>① 災害時、在宅で人工呼吸器等の医療機器を使用している方の避難について伺う。</p> <p>ア 在宅で人工呼吸器等の医療機器を使用している方の把握</p> <p>イ 医療機器メーカーや関係者との協力</p> <p>ウ 避難先に求められる対応や設備</p>	



質問者	5 川 光 秀 昭
質問事項・質問内容	
(1) 新体育館建設に係る事業手法について	
<p>① 令和元年11月5日の全員協議会において、新体育館の建設についてPFI等導入可能性調査業務の報告等を踏まえ検討した結果、事業手法をPFI(BTO)手法で進めることが報告されました。この事について、平成29年5月に発表された、『出雲市次期可燃ごみ処理施設PFI等導入可能性調査報告書』（以下、次期可燃ごみ報告書）と比べ、次の4点について質問します。</p> <p>ア 新体育館で採用したPFI(BTO)手法と次期可燃ごみ報告書で最も有効な事業方式とされたDBO方式の違い</p> <p>イ VFMは市の財政負担の指標となりますが、最も優れた手法を選択しなかった理由</p> <p>ウ 金融機関によるモニタリングが働くと事業の安定化が図られる理由</p> <p>エ 地元建設企業が事業への参画を促すための対策や支援</p>	
(2) 災害への備えは充分ですか	
<p>① この秋に日本を襲った3つの台風は、多くの自治体に多大な被害をもたらしました。特に台風19号では、気象庁が事前に記者会見を行うなど異例の対応による警戒を呼びかけ、早めの避難勧告や指示などを出した自治体もありましたが、住民への情報の伝達や受け止め方の違いから甚大な被害となった事例も散見されます。出雲市でも8月23日には警戒レベル4の避難勧告が発令されました。もう、自然災害に対して、“想定外”という言葉は必要ありません。出雲市の（自然）災害に関して質問します。</p> <p>ア 時間当たりの雨量が80mmを超えた場合の市内の河川の状況を把握していますか</p> <p>イ 多くの地点で40mを超える風速が観測されました。この風による被害の状況を把握していますか。また、高潮についてはどうですか</p> <p>ウ 情報の伝達の方法は</p> <p>エ 広範囲におよぶ停電が、長い時間継続しました。出雲市の停電に対する対策は</p>	

質問者	24 板倉 一郎
質問事項・質問内容	
(1) 水害発生時の避難について	
<p>① 今年10月に発生した台風19号は、関東甲信・東北地方などをはじめ、多くの都道府県に死者・行方不明者をはじめとする多くの被害をもたらしました。このことにより、出雲市民の中でも改めて、水害発生時における避難のあり方について関心が持たれています。そこで、次の点を伺います。</p> <p>ア 現在の地域防災計画の避難の考え方について伺う。</p> <p>    a 一般市民の避難の考え方</p> <p>    b 避難行動要支援者の避難の考え方</p> <p>    c 子どもの避難の考え方</p> <p>    d 外国籍の住民の避難の考え方</p> <p>イ 避難行動要支援者の避難の方法について、避難行動要支援者名簿が各地区自治協会、各町内の自治会に情報提供されているが、特に市街地中心部は、人口が多いうえに、自治会加入率の低下および高齢化が進展しており、実際のところ、計画どおり避難できるのか疑問の声が多くでている。避難行動要支援者の避難のあり方について、地域の実態に合わせて見直すべきではないか。あわせて、避難行動要支援者の市全体の人数、市内の人口が多い地区での各地区毎の人数について、避難行動要支援者の情報提供に同意された方と同意されていない方と、それぞれについて伺う。</p> <p>ウ 民間企業の避難場所の提供および避難支援への民間企業の協力は、どのようになっているのか伺う。</p> <p>エ 避難支援など災害対策にあたっている子どもの避難についての考え方について伺う。</p>	

質問者	6 児 玉 俊 雄
質問事項・質問内容	
(1) 高齢者世帯等への各種通知について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各種通知書類の発送後の対応を伺う。</li> <li>② 福祉施策等の効果をより高めるため、通知後のフォロー体制を強化すべきと考えるが、所見を伺う。</li> </ul>	
(2) 市内全域への光ファイバー網の整備について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 市内の光ファイバー網の整備状況を伺う。</li> <li>② 光ファイバー網の拡大について把握されている情報があればご教示いただきたい。</li> <li>③ 市内全域への光ファイバー網の早期整備のため、行政も積極的に関わるべきと考えるが、所見を伺う。</li> </ul>	

質問者	27 福代秀洋
質問事項・質問内容	
(1) 地球温暖化対策について	
<p>① 基本的な考え ア 出雲市として地球温暖化対策を行うことの必要性、重要性をどう考えているのか。</p> <p>② 地方公共団体実行計画区域施策編について ア この分野の取り組みを推進し成果を上げていくうえでの課題・問題をどう考えているのか。これにどう対処してきたのか。またその成果は。</p> <p>③ 地方公共団体実行計画事務事業編について ア この分野の取り組みを推進し成果を上げていくうえでの課題・問題をどう考えているのか。これにどう対処してきたのか。またその成果は。</p> <p>④ 費用と人員体制は ア これらの計画を推進するためにいくらの費用をかけているのか、また人員体制と評価を伺う。</p>	
(2) SOFT JAPAN出雲キャンプの成果と今後について	
<p>① 今回の成果 ア 先般行われたSOFT JAPAN出雲キャンプの成果をどうとらえているのかお伺いします。</p> <p>② 今後の取り組み ア 今後この成果をどのように生かしていきたいと考えているのかお伺いします。</p>	

質問者	1 1 湯 浅 啓 史
質問事項・質問内容	
(1) 災害時等の避難所について	
<p>① 台風など事前に風水害が予想される場合、避難指示や避難勧告が発令される前に、自主的に近隣のコミュニティセンターなどに避難する事を希望されるケースがあると考えられる。その場合、自主的な避難であるため、自助共助により避難所の設置や運営が必要と思われる。</p> <p>自主的な避難時における市の支援体制について伺う。</p> <p>ア 自主的な避難所として公共施設を利用することは可能か</p> <p>イ 可能な場合、公共施設はどのような手続きを経て行う事となるのか</p> <p>ウ コミュニティセンターの職員の方や地区担当職員の方の協力は得られるのか</p>	
(2) 島根半島・宍道湖中海ジオパークの取り組みについて	
<p>① 島根半島・宍道湖中海ジオパークは、2017年12月に日本ジオパークに認定された。現在、松江市と出雲市が予算を出し合い、島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会が調査・研究及び普及・啓発活動の経費を負担している。</p> <p>現状と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>ア ジオパークの認定によって得られる効果として観光客の増加が掲げられがちだが、ジオパークを有する他の自治体では、観光客の増加を副次的なものとして捉えているケースが多いように思うが、出雲市の見解は</p> <p>イ 地域に暮らす者にとっては、地域学習、ふるさと教育、生涯学習という面が強い。全て協議会で行うのではなく、市独自の取り組みも必要と考えるが見解を伺う</p> <p>ウ ジオサイトの拠点として、日御碕ビジターセンターが中心的役割を果たす事が望ましい。しかし、地域学習、ふるさと教育、生涯学習という側面からは出雲科学館にその拠点を置くべきと考えるが、市の見解は</p> <p>エ 2020年には日本ジオパーク全国大会が島根県で開かれる予定と聞かすが、詳細を伺う</p>	

質問者	31 宮本 享
質問事項・質問内容	
(1) 大災害に備えた防災対策について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 防災ハザードマップの住民理解、周知について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 防災ハザードマップの内容</li> <li>イ 市民の皆様の理解度</li> <li>ウ 住民周知のための取り組み</li> </ul> </li> <li>② 河川改修等ハード対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 斐伊川放水路事業以外の河川の改修状況、今後の予定</li> <li>イ 一日の雨量が平年の一か月分の大雨となった場合の越水、決壊の危険性</li> </ul> </li> <li>③ 福祉施設等の防災対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の福祉施設等の防災対策</li> </ul> </li> </ul>	
(2) 主要地方道 出雲三刀屋線の整備状況について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 整備の進捗状況について</li> <li>② 未着手工区について</li> </ul>	

質問者	13 寺本淳一
質問事項・質問内容	
(1) 農業用排水の修繕対応について	
<p>① 出雲市内には、過去の圃場整備事業から40年以上経過している農業用排水路が多く存在し、老朽化が激しい状況です。市に修繕を求めた場合、受益者負担を求められる事業を紹介されます。しかし、近年は住宅やアパートと農地が混在する地域が増え、住宅等の浄化槽排水や生活排水が用排水路に流されています。また用水路には道路側溝を兼ねている路線もあります。農業用と位置づけて、担当課からは受益者負担を求められるが、このような場合、農家だけに負担を求めることは、ふさわしくないと考えます。一方、生活排水が流れる河川については生活環境下水路改良事業がなされています。</p> <p>住宅排水が流入する農業用排水路の修繕についての対応は改めて検討をしてもraitたいが、市の考えを伺います。</p>	

質問者	1 2 神 門 至
質問事項・質問内容	
(1) 自然災害時（被害）における大量のごみ処理について	
<p>① 今年も記録的な豪雨が頻発し、全国各地に甚大な被害をもたらす中、市民は他人事ではない自然災害の恐怖と不安を改めて痛感されたのではないのでしょうか。また、被災された皆さんの生活は一変し、お家の片付けなど、再建に向けた苦悩は計り知れないものがあると考えます。</p> <p>そこで、自然災害時（被害）における大量のごみ処理について、台風19号規模被害を検証しつつ、市の考えについてお伺いいたします。</p> <p>ア 大量のごみ処理（片付け）は ※高齢者世帯の片付け等を含む。</p> <p>イ その集積場所は ※家財・土砂を含む。</p> <p>ウ その事前周知は ※自治会・自治会未加入者への周知を含む。</p> <p>エ また、最終処分場の現状は ※産業廃棄物を含む。</p>	
(2) 市内小中高・特別支援学校における問題行動および不登校調査について	
<p>① 文部科学省は10月17日に、全国の国公立小中高、特別支援学校を対象に実施した2018年度問題行動・不登校調査の結果を公表しました。</p> <p>そこで、以下のことについてお伺いいたします。</p> <p>ア 出雲市の状況（結果）は</p> <p>イ その要因は</p> <p>ウ また、その対策は ※何らかの理由で学校に登校できない小中学生への対策含む。</p>	
(3) 出雲いりすの丘公園の再生方針について	
<p>① 出雲いりすの丘公園が休園状態となった平成19年度以降、再生方針や地権者との協議など、さまざまな角度から再生に向けての検討がなされていると考えます。</p> <p>そこで、以下のことについてお伺いいたします。</p> <p>ア 休園状態となった以降の維持管理費は ※年度ごとの維持管理費を含む。</p> <p>イ これまでの再生方針の取り組み状況及び課題は ※国との調整を含む。</p> <p>ウ 今後の再生方針の考えは ※今後の利活用（新たな事業等）・具体的なスケジュールを含む。</p>	



質問者	8 本 田 一 勇
質問事項・質問内容	
(1) 防風林（魚付き松）の現状について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 松枯れの原因を改めて教えてください</li> <li>② 松枯れ防除の予算はいくらか</li> <li>③ ドローンを使ってピンポイントの空中散布はできるか</li> <li>④ 松に変わる植物はないか</li> </ul>	
(2) 業務改善提案制度のその後は	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 若手グループの提案はできたか</li> <li>② あればその内容は、どんなものだったのか</li> <li>③ 提案用紙は改善されましたか</li> <li>④ 今年になって改善提案はありますか</li> <li>⑤ 改善提案の月・日を改めて作りませんか</li> </ul>	

質問者	4 後藤由美
質問事項・質問内容	
(1) 消費税10%増税について	
<p>① 消費税が10%に引き上げられてから2カ月が経過しました。5年前に8%に増税されて以降、家計消費が全国平均年間20万円以上も落ち込み回復していない時、10%増税で消費はさらなる落ち込みを見せています。全国的に閉店や廃業する中小商店も相次いでいます。市民の消費動向や市内業者の状況を把握し、より一層の支援が必要です。そこで、伺います。</p> <p>ア 消費者の視点から伺います。増税による景気対策として導入された「キャッシュレス決済のポイント還元」は仕組みが複雑で、「高齢者や弱いものいじめの制度」と指摘する声もあがっています。自治体が発行する、最大2万円で2万5千円分の買い物ができる「プレミアム付き商品券」の発行も思うように進んでいません。このような複雑な対策より、消費税率を5%に引き下げることが最大の景気対策と考えますが所見を伺います。</p> <p>イ 中小業者の視点から伺います。「軽減税率は大変困る。業者の中には廃業しようかという人もいる」「来年の申告の時が一番心配」など様々な不安が広がっています。中でも特に心配されている問題が、軽減税率を口実に導入が狙われている「インボイス制度」です。売り上げ1000万円以下の消費税免税業者が課税業者となって導入を迫られるものです。「消費税率アップとともにこれも大問題で、増税以上の影響が出るのでは」との声があがりました。市内の中小業者を守るために、国に対して中止を求めるべきです。所見を伺います。</p>	
(2) 大型店の出店規制について	
<p>① 増税による負担増で、市民の買い物は少しでも安い所に向かう傾向がますます強まると考えられます。出雲市は大型店出店、またこの数年安価で売るスーパーの出店が相次ぎ、今や人口10万人当たりの店舗数は島根県が約50件で全国一位です。なかでも出雲市が過密状況になっており、地元小売業からは悲鳴が上がっています。地元商店街を守り、「買い物難民」と呼ばれる地域をなくし、誰もが住み続けられるまちづくりのためにも、大型店出店などに歯止めをかける自治体の役割が求められます。そこで伺います。</p> <p>ア 福島県では2006年、大型店出店に反対する商工業者らの運動の広がりの中、店舗面積6000平方メートル以上の大型店に対し、届け出を義務付け、事実上規制するための条例を制定しています。市としても何らかの条例などで歯止めが必要であり、そのためにも専門家や地元商工団体等とともに考えていく枠組みを作ることが大切と考えますが、所見を伺います。</p>	
(3) 災害時の避難について	
<p>① 近年毎年のように大きな自然災害が発生し、今年の台風19号、21号などによる記録的豪雨は、関東東北を中心に甚大な被害を及ぼしました。市内でも「あれほど降ったら市内中心部も浸かるのでは」という不安の声があがっています。今、ハード及びソフト対策の抜本的強化が求められており、災害に強いまちづくりをすすめるため、どの地域でもあらゆる事態を想定し備えを強めることが欠かせません。そこで伺います。</p>	

- ア 市が指定している「指定避難場所」が184カ所ありますが、降雨量が計画規模の場合、浸水想定区域内施設が53施設、29%あります。また耐震設計基準外施設が25施設、14%です。「指定避難場所」に指定しているなら、そこは最優先で整備することが必要と考えますが所見を伺います。また、「指定避難場所」に行く前に町内会などが自主的に開設する「一時避難所」を持っている地域がありますが、この場所を市としても把握しておくことが求められます。所見を伺います。
- イ ハザードマップは各家庭や個人がいざというとき、どこが危険で、どこに避難すべきかなど、理解されることが大前提です。全戸配布されてから1年が経過しましたが、「自分の家がどこに記載されているのかわからない」「見方がわからない」など様々な声があります。ハザードマップを市民が正しく理解でき、住民の防災・減災行動につながるものにするためにも、小学校単位ごと、町内ごとなど、一目でわかるように再度改定することが必要と考えますが、所見を伺います。また学習・徹底が必要です。市が積極的に説明会を開くことを求めますが所見を伺います。
- ウ 避難所での防災備蓄物資整備も重要です。出雲市は県内の自治体の中でも食料などは一定程度備蓄されていますが、飲料水・保存水が全く備蓄されていません。この間の災害の教訓も活かし、改善させることを求めますが、今後の計画を伺います。

#### (4) 県の「小中学校少人数学級編制見直し」について

- ① 県は、県政運営計画「島根創生計画」をまとめ、目玉施策として「放課後児童クラブ」の利用時間延長への支援策を打ち出しました。そしてその財源確保のためとして、小中学校の少人数学級編制を見直すという、世界的な流れからも現場の要求からも真っ向から反する計画となっています。少人数学級は子ども一人一人をていねいに育てるために必要であり、国民みんなの強い要求です。そこで伺います。
  - ア 県の少人数学級編制見直しは、小学1・2年で現行の30人の少人数学級編制を32人に、また3年生から6年生、中学2・3年で現行の35人の少人数学級編制を38人にするという、改悪の提案です。この計画通りになった場合、市内の学校はどうなるのか、想定される影響を伺います。また、全県では100名規模の教員の減少が予定されていますが、市内での教員減少はどうなるのか伺います。
  - イ 県の少人数学級編制は2016年度に導入され、国の編制基準の小学校1・2年35人、小学3年から中学3年40人より少ない基準で実施しており、きめ細かな学習指導などの効果が期待されてきました。これを「放課後児童クラブの利用時間延長」と引き換えに後退させるなど、大問題と言わざるを得ません。子どもや教育にかける財源を天秤にかけるようなこの計画をやめさせるため、県に少人数学級の見直し撤回を要求すべきと考えます。所見を伺います。